

事業実施報告

| | | | |
|-------|-------------------------------|------|-----|
| 開催日 | 令和4年5月21日（土）～5月22日（日） | | |
| 事業名 | テニパークボランティア養成事業 | | |
| 開催場所 | 国立岩手山青少年交流の家 | 参加人数 | 43名 |
| 対象 | 青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ大学生、社会人等 | | |
| 関係機関名 | 滝沢消防署滝沢北出張所 | | |

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

[事業の内容]

ボランティア活動に興味関心をもつ大学生が、講義・演習をとおしてボランティア活動の基本を学び、活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身に付けるため、事業のプログラム構成に当たっては主体的に取り組める体験プログラムの提供を意識した。

「ボランティア活動の意義」、「青少年教育」の講師には、ボランティアについての造詣が深く、自身のボランティア経験も豊富な東北学院大学地域連携センターの渡邊圭氏を招聘した。事前に、法人ボランティアを交えたオンラインミーティングを実施し、ボランティアの意見をプログラムの中に反映させ、ボランティアの参加動機や自己有用感が高まるような内容となるように検討した。また、講義の初めには、初対面の参加者同士が緊張を解いて講義に臨むことができるようアイスブレイクを行い、主体的に意見交換をしながら活動できるようにした。

「ボランティア活動の技術」では、野外炊事を通して、野外活動を行うための技術・知識を学び、安全管理の徹底を意識させるようにした。

「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、制度の仕組みやボランティア募集する事業について説明した。プロパー職員からは、ボランティア経験が社会人となりどのように役立っているのか説明した。

「安全管理」では、国立磐梯青少年交流の家の飯野智氏に救命救命法について講義・演習をしていただいた。演習に多くの時間を割き、反復する中で救命救命法を身に付けることができるよう配慮した。

[成果]

参加者同士が協力・協調する中で課題解決に向かっていかなければならない場面を多く設けたことにより、主体的、意欲的にプログラムに取り組む姿が多く見られた。東北学院大学・渡邊氏の講義が、ボランティア活動の意義について深く考えることができる内容構成になっており、今後、参加者がボランティアをしていく上での原点となっていくことが期待できる。

効果的な法人ボランティアの参画を促すため、事業の趣旨説明や野外炊事の実地踏査を事前に行った。班付き活動では的確なアドバイスをするなど参加者に寄り添いながら活動を補助する様子が見られた。法人ボランティアの事後アンケートにおいても満足度が100%となるなど、今回の事業を通して法人ボランティアの自己有用感を育むことができた実感することができた。

事業の広報においては、青森・秋田・岩手の三県の大学・専門学校にチラシを配布したほか、盛岡大学のカリキュラムガイダンスの時間での説明や、岩手大学新入生サークルオリエンテーションでのブースを設置、講義の中でのPRなどで事業の周知を図った。その結果、盛岡大学29名、岩手大学・県立大学14名の学生が参加するなど、毎年安定した参加者を確保することができた。今後も、今年度の活動をとおして得た広報のノウハウをいかし、より多様な人材を積極的に獲得していきたいと考えている。

[課題]

新型コロナウイルス感染症の流行が収束せず、「安全管理」の救命救命法の講義を消防などの外部講師に依頼することができなくなってしまった。幸い、今回は他施設で救命救命普及員の資格を持っている方にご協力をいただけたが、事業の実施に際しては、様々なケースを想定した準備が必要であると感じた。今後は確実に実施できる外部講師に依頼したり、職員が資格取得し講義を担ったりできるように検討していく必要があると感じた。

状況写真



「講義・演習の様



「講義・演習の様



「野外炊事の様子」



「講義・演習の様



「救命救命法の様



「救命救命法の様